

生徒との対立を生まない「3本の矢」

2025・6・3 重枝 一郎

生徒と対立することは、なかなか辛いものである。自分の指導は間違っていないと思いきると、対立は起こりやすい。またその指導は、「成長促進型生徒指導（開発的生徒指導）」にはならない場合が多い。今号は「生徒との対立」にならないための「3本の矢」について書く。

◆第1の矢

「私メッセージ」

これは、相手を評価・非難しないで、自分の気持ちを正直に素直に伝えることになる。指導・命令でないので生徒の心が動きやすい。

◆第2の矢

「ポジティブリスニング」

- やり方としては、
- ①繰り返して気持ちを確認する（リターンリスニング）
 - ②言い換えることで整理して伝える（チェンジリスニング）
 - ③気持ちをくんで伝える（ハートリスニング）

この第1の矢と第2の矢をしていれば、生徒との対立は生じにくい。それでもまだ「対立」しているときは、問題解決的な第3の矢（共に勝つ）を放つことになる。

◆第3の矢

3つの勝つ	教師のこと	生徒のこと
①教師が勝つ (かすくで従わせる)	<ul style="list-style-type: none">・常に主導権を握らなくてはならなくなり、ずっと厳しく言わなくてはならなかったり、すべて解決策を持ち出さなくてはならなかったりする。・避けられる、恨まれる・決定的なことに関して影響力を失う・いつも力を入れていてストレスフル	<ul style="list-style-type: none">・自己コントロールする力が弱くなる・強く言われないとやらない・反発、うそ・脱落者を生む
②生徒が勝つ (嫌だけど放任している)	<ul style="list-style-type: none">・自尊心が傷つく・生徒を嫌いになる・イライラする・粘りがなくなる	<ul style="list-style-type: none">・軽く扱う・わがまま・他者への配慮がなくなる・衝動的になる
③共に勝つ	6つのステップ（相互理解を目指す） <ol style="list-style-type: none">1 教師、生徒共に思っていることを明らかにする2 考えられる方策を出す3 それを一緒に〇×4 両方の〇を決定する5 実行6 振り返り	